

西暦20XX年…

人間の脳機能のほぼすべてが解明された未来…

医療の発展の影で、その技術を悪用した  
催眠犯罪を繰り返す催眠術師が世に溢れることになる。

脱法催眠行為が横行する街も現れ、  
世界は混迷を極めていた—

しかし、人類にはまだ希望が残っていた。

催眠犯罪者の催眠攻撃に対抗できる者—  
彼らの持つ独特の脳波は催眠行為に対して乱されにくい。

そんな対洗脳・催眠特別組織のメンバーを  
人は**抗眠士**と呼んだ—

本作はその**抗眠士**である「**夢乃みどり**」  
彼女の戦いの物語である。

室内に男女の交わる音が響く……

「オラっ！ オラっ！！絶対孕めよ！  
俺の子産めッ!!」

「らやめっ♡♡♡  
やだやだ♡♡♡  
イッ♡♡♡  
もっ♡♡♡  
ダメっ♡♡♡  
ダメっ♡♡♡

パァン!!  
パァン!!  
パァン!!  
パァン!!  
だぼんっ  
だぼんっ





「フガッ!？」

男は急に現実へと引き戻される。  
先ほどまで抱いていた女が見下ろしていた。



「睡眠中失礼。  
抗眠士の夢乃みどりと申します」

(夢で見た通り…いや夢よりスゲえ体してるな…)

凜とした顔や声とは裏腹に、  
あまりにも大きいおっぱいが目立つ。

腰回りも太ももさえも、  
世の中の男の理想を詰め込んだような  
ワガママっぷりを醸している。

どこからか甘い匂いすらしており、  
妊娠適齢期の雌として完成されている、  
まさに激シコボディであった♡



「違法に夢を視聴する器具…  
お前…これをどこで手に入れた？  
今まで見ていた私のビデオもだが」

「それは口止めなされてるんだなあ…  
俺の女になるっていうなら教えるぞ♥」

「下種が…っ  
手を出せ。手錠をかけたはてしもないぞっ」



ゆさっ

△4

△4

△4

「ちょっと待ってくれ…  
久しぶりに動くから、体が痺れて」

そう言った男はゆっくりと  
体を起こそうとするが、  
力がうまく入らないのかふらついてる。



「おい…っ 大丈夫か  
この器具は本当に危険なものなんだぞ」

助けようと、みどり男に手を伸ばすと――

バチイイツ!!

男はいつの間にか手に握ったスタンガンをみどりに押し当てていた。強烈な電気ショックにみどりはその場に倒れてしまった。完全に気を失っている。

ドンヤ...

パチ

「ぎったあああああ!!!」

爆乳JKゲットオオオオオ!!!

いくらなんでもチヨロすぎだろおおお!!!」

男の動作は演技だったのだ。

そのまま叫びながら倒れこむみどりへと近づく……

「やべっ……！ やべっ……！ もう戻れねえっ……！  
まおっっ リアルまおっっナマハメしてええっ」



男の目の前には偶然、  
あの凜とした激シコ爆乳JKが  
まるで種付けをおねだりする様に  
尻を突き出していた。



「はあっ！ くっさ手が震えて… これだ…」



男はどこから取り出したカプセルを開けると指に小さな虫のような機械を乗せた。そのままゆっくりとみどりの下着をずらしていく。

「うおっめっちゃあつたけえ……」

男は機械を奥へ押し込むように膣にゆっくりと指を差し入れていく。

「えっこれ処女膜じゃん！

このヒロ乳でマジで処女だったのか……」

フワッポ……

夢乃みどりファンの間でもみどりが処女か否かはたびたび話題に上がっていた。



「よっし……子宮口♥  
俺がああ夢乃みどりの初めての相手…  
そしてこれでみどりは俺の女♥」

男は処女膜に傷をつけないように、  
細心の注意を払い機械を奥へと押し込むと、  
指を引き抜いた。

「フアンの皆いめんw俺が処女もらったわw」

フワッポ…



男は息を荒くして服を脱ぐ。  
いきり立った男根にはもちろん何も付けず、  
そのままみどりの小ぶりの臍に押し当てた。



生まれてからずっと守ってきた貞操を  
あっけなく奪われようとしていることに  
当の本人は全く気付いていない。

男は何の躊躇もなく、腰を深く突き入れた。  
相手のことを何ひとつ考えず、ただ自分が  
膣内で射精するだけ♥本気のレイプ開始♥

「おおおおおおお~~~~っ♥  
夢乃みどりの生処女膣たまんね…っ  
もうイキそ…」



夢乃みどりの今までの人生を全否定する  
しよ〜もない初セックス♥

優しくも遅しくもない  
タダの犯罪者に処女を明け渡す  
徹底的なアド損セックス♥

「みどりっ！ 結婚しろ…っ！ 精液少し漏れてるっ  
イクイクイクイク…」

男はあまりの極上膣にまともに腰が振れないまま  
夢乃みどりの清廉潔白だった子宮に  
ただただ自分の劣等遺伝子を送ろうと必死♥

あともう少しで  
犯罪者の金玉からジユクジユク作られた  
ゴミ精子が極上の雌に送られてしまう♥

「やべえマジで全部飲めっ  
毎日セックスしようっ クソがっ  
やばいホントに田舎っ 締めろよ!!」

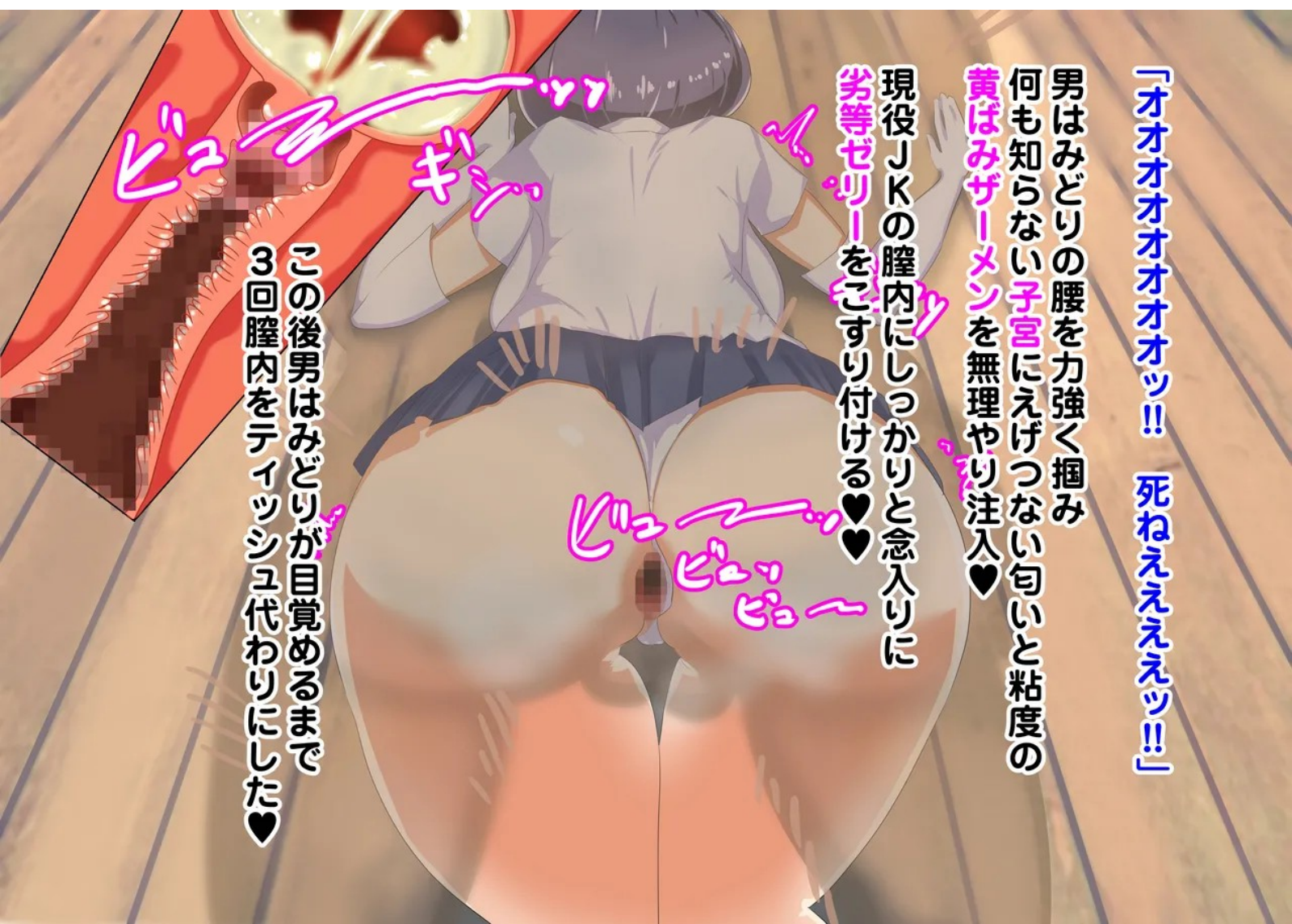


「オオオオオオオッ!! 死ねえええッ!!」

男はみどりの腰を力強く掴み  
何も知らない子宮にえげつない匂いと粘度の  
黄ばみザーメンを無理やり注入♥

現役JKの膣内にしつかりと念入りに  
劣等ゼリーをこすり付ける♥♥

この後男はみどりが目覚めるまで  
3回膣内をティッシュ代わりにした♥



「催眠ナノマシンが効いたなw

もう俺の指示通り動くよなあ？

今日は裸で過ぐせ」

「くっ……私に何をしたらっ！」

キッ!

「抗眠士にも催眠が効くようにしたってわけよ

昨日はさんさん生膾楽しませてもらったぜ……」

男の持っていた機械は催眠ナノマシン……

抗眠士の神経系に直接働きかけ、

催眠・洗脳への耐性をガバガバにするものだった。

ふらふら

もいもい

「フフフあとなあ、お前の子宮に埋め込んだナノマシンによってなあ、俺のDNAへの感度が数十倍になってるぞ」

「勝手にしろ! 私はそんなことでは屈しない!」

キッ!

「いいねえ…じゃあ声我慢してみるー!」

男は肩を叩くような力で見どりの股間を軽くはたく。

ふらふら

もじもじ

「ホおおっ♡♡」

ビクッ

「ダメじゃねーか(笑)」

みどりはDNA、つまりこの男を生理的に好きな気持ちにされてしまっていた!

男は満足そうに笑うと、みどりを別の部屋に連れて行った。

キコッ♡

Whi

10分ほど、男はねっとり  
みどりの爆乳を  
弄んでいた。

フーッ フーッ……」

「昨日出した精子…当たってるかな？」

「知る、かつ！ ふうっ！」

「声出してらさぞ(笑)」

「断る、っ！」

男には、必死に  
快感を堪えるみどりが  
だんだん愛おしく見えてくる。



「諦めろって♥  
もう俺のオシナになれよ」

「私が…っ！  
帰らなければ…  
ここに増援が来るぞっ」

「それまでに墮とすわ  
俺と一緒に逃げようぜ」

「意味がわからぬわい…！」

「ククク、俺のことは好きだが  
理性がまだあるようだ」

ずっと甘く撫でられて  
ピンピンに勃起した乳首を  
男は下品に舐め始めた。

たふ。。

ふふ  
ふふ







「なめなるなめなる♡♡♡」

えろ...  
ちろ...

今やみどりは  
舐められること子宮が疼き♡  
男への愛が増えていく♡

わおわお

わおわお

我慢するほど子宮に好きが溜まる♡  
男らしく愛してくれるこの雄が好き♡

「愛してない! こんな無理矢理...♡」

「俺は愛してるよ」  
ギョッ

男からの突然の告白に

胸が高鳴る♥

もう好き♥

正直さっきから

ずっとドキドキしてる♥♥

えろ...  
ろ...

「だ...だめだ...っ

私は...夢乃みどり...抗眠士

そうだ...ご自分で...」

わろ  
わろ

「わっわっわ... 墮ちろ...」

男はさっきまでの甘い動きから一変、  
痛いほど勃起した乳首に吸い付いた。

ギョ



「オっっ☆ イッグっ…☆  
これダメっ…♡  
やめ…ほオッ♡」

さんざん焦らされ  
敏感になった乳首を  
滅茶苦茶に吸い上げる♡

みどりの下腹に溜まった好きが爆発する。  
取り締まるはずの男が好き♡  
レイプする男がとて也喜欢♡  
そんな心地よい気持ちに包まれて、  
みどりは気を失った——



「あつ…あなた、次は何…?」

みどりは何の違和感も持たずに  
男の指示に従っていた。

「もう堕ちたか? 自分の名前言えるか?」

「ッ」

ふるん

もいもい



「わ、私はいったい何を——!？」

我に返ったみどりを男はニヤニヤしながら  
眺める。もうナノマシンによる洗脳も  
だいぶ進行していた。

あたふたするみどりを男はまた  
別の部屋に連れていく……

ふらふら

もじもじ



ベッドに寝かされたみどりの四肢を男は鎖で固定する。

「悪趣味だな……どうでもしないと女を抱けないとは！」

みどりの必死の強がりも  
さんざんアへ顔絶頂しまくった後では  
全く男には届かない。

たゆん

ギョ

ギョ

「これ垂らしたら地獄だぜ…！  
オイルに俺の精液と唾液を加えたものだ…」

「DNA…っ!?  
(これはマズい…っ)」

男は茶色いオイルを  
垂らすべく容器を傾ける。

ギョッ

たん

ギョッ

男のぐっぐっした手でゆっくると

オイルが延ばされていく。

男の手が、オイルが肌に触れるたびにみどりの子宮が疼く。

「ふっ…くっ…はっ」

「俺が戻ってくるまで

必死に我慢するんだな」

男が部屋を出ていく。

たん



1時間後——みどりは男とのセックスを想像して体を振っていた。

あの雄の精を子宮に浴びたい♡  
全部忘れて最高の絶頂を味わいたい♡

くっくっくっ♡ ふーっくっ♡

この責めを耐える理由が  
いつか脱出するためではなく、

男と気持ちのいい交尾をするために  
すり替わっていた。



2時間後

「どうだ??」

「オオツ…♡」

オツ…♡

「ひっでえww

「シーツびちよびちよじゃんw」

みどりは男を見つけたものの  
声をかける余裕もなく、  
小刻みに絶頂を繰り返していた。



「おっい？ 放置しすぎたか？」

「オッ…♡ オウッ…♡♡」

「…」

男はみどりの反応にいらだち、  
思い切り両胸をもみ始める♡



「はあああああ♡♡♡♡♡

イグイグイグウウウウウ♡♡♡♡♡

「もっど♡♡♡ もっど乳首♡♡♡  
イググ♡♡♡ 死ぬ♡♡♡ 死んじゃう♡♡♡」

「……」

男は無言でみどりの股の間に座ると

ペニスをこすり付ける♡♡♡

無言の求愛行動♡♡♡



みどりはぐくり、と喉を鳴らした♡

うっとりとなりの男のペニスを眺めている♡

もう子宮はズット前から負けを認めている♡

「おねだりしろ」

「ア……♡」

みどりは本能的に

『ゴゴゴでおねだりしたらもう戻れない♡』  
ことを悟っていた♡

ハズ♡

ハズ♡

♡

♡



大丈夫♥ 解ってるよ♥ と言うかのように  
男はみどりの雑魚ま〇こにペニスを挿入する。

「ふわあああっ♡♡♡  
やだやだあああっ♡♡♡」

2時間薬漬けにされたアツアツのおま〇こで  
大好きな彼のペニスをほどよいキツさで包み込む♡♡  
カンペキ恋人同士のらぶらぶ交尾開始♡♡

ズ「4」ウウウッ...

男のペニスが子宮口を小突く度にみどりの脳が壊れていく♥

(好き♥好き♥愛してる♥愛してる♥)

ザーメンを出来るだけ新鮮なまま飲み込むため  
ま〇こは常にぴっちりと密着♥♥

男がいつ射精してもいいように

子宮降りっぱなし♥♥吸い付きっぱなし♥♥

男の動きもだんだん早くなっていく♥

俺の雌ならば当然種付け♥ 逃がさない意志♥

バン! バン!  
バン! バン!  
ズバン!

雄が最高に優越感を得られるように劣等煽りも挟んでいく♥

「やだあっ♡いやいやっ♡  
犯罪者っ♡レイプ犯なのっ♡  
すまっ♡」

「好きにさわれちゃっ♡♡♡  
はあんっ無理っ♡♡♡

「イッグ♡♡♡イッグ♡♡♡  
あなたの♡♡名前を教えてっ♡♡♡  
名前でイキたい♡♡」

「だー!」

バン! バン!  
ズバン!  
バン!

「~~~~~♡♡♡♡♡」

「みどりに射精ッ！ 孕めッ！孕めよっ!!」

みどりは男の名前を叫ぶや否や最高の絶頂を迎える♡  
同時に男も亀頭をぴったり子宮口につけたまま  
無責任に孕ませる気マンマンの膣内射精♡

ツブツブのゼリー状の精液がみどりの子宮にへばりつくへ♡  
もう洗っても取れないと主張している♡

ビュッ  
ビュッ  
ビュッ  
バビュッ  
バビュッ

「あの、今日の伽は」

は〜♡♡

は〜♡♡

どき♡

どき♡

ん

ぎゅ♡

ぎゅ♡

みどりは先日の責めが苛烈すぎて  
精神汚染が進んでおり、  
自ら男にセックスをねだっている。

そこにかつての抗眠士の面影はなく、  
もはやただのスケベな爆乳JKになっていた。

ん

極上の雌からのスケベなおねだりに  
男は耐えきれずペニスを突き入れる♥♥

それをみどりが膣でやさしく迎え入れる♥♥  
お互いを心から想っている同士のセックスが始まった。

「ラ—ッ!! フ—ッ!!」

「そんながつつかなくても…  
私は逃げないぞ…♥♥」

鼻息の荒い男にみどりは笑いかける。

ギョッ…



「完全に俺のモン!! 俺の女!!」

男の乱暴でヘツタクソな腰振りにもみどりは愛を感じてしまっている♥

こんな至福の時のはずが、意外にも男は焦っていた。

(ナノマシンの効果が切れる前に確実に孕ませないといけねえ……)



ギョッ...

男の使用したナノマシンは所詮安物。  
完全洗脳には絶えず男のDNAを  
与え続ける必要があった!!

そのためDNAを混ぜこむ行為=受精♥が  
必要だったのだ!!

(そして情報屋によると)

今日がコイツの排卵日……

ここで受精させなければ俺が捕まる……!!)

男の人生のかかったがむしやらピストンが始まる♥





「オッ♡ いきなり激じっ♡♡♡」

「フ——っ♡ 絶対今日孕ませるからな—  
もう逃がさねえぞ!!」

「おっ♡ おっ♡ おっ♡ おっ♡  
本気っ♡ 本気の孕ませピストンされてるっ♡♡」

「ナノマシン高かったんだぞ…っ!!  
お前のビデオを見ると検査される情報も!!  
お前の排卵日の情報も!!」

「そんなっ♡ 知らないっ♡♡♡」

「たりめえだろ!! こちとら  
夢乃みどりと! お前とセックスするために  
全財産かけてんだよ!!」

「イクっ♡ イックっ♡ キックっ♡  
けっ結婚♡ 孕ませて結婚してっ♡」

男に重い愛をぶつけられて  
思わずみどりからプロポーズ♡

汚い手しか使わない最低のクズ男に  
人生を託す選択♡♡ 最低のプロポーズ♡♡







「うおおおおお!!

卵子あけ渡せえええ!!

一生俺に尽くせっつ!!

「!!!」

男の咆哮♥本気の射精♥

煮えたぎった欲望の煮凝り♥が

尿道を昇ってくる♥♥♥ もう出る♥

現役JKを受精させる♥孕ませる♥

みっともないお腹にさせる♥♥♥

最高にキモチいい無責任射精♥♥♥

パン!

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡



「何やってんだああああああ!!」

おめえええええええ!!

止まれっつっ!! 出てるっつっ!!」

みどりは男が射精する瞬間、腰を下げてペニスを抜いたのだ……!!

びゅ♡

たげっ..

たげっ..

さっきまで卵子を襲おうと息巻いていた精子たちが無駄に失われていく!





「残念だったな まさに無駄打ち」

「さ…催眠は!？」

「目の前の光景が現実だっ 諦めろ」

土壇場で催眠への耐性を取り戻した  
みどり!! 彼女の逆転劇が始まる!!

「オラアッ!!」

「ほおッ★」

ズブッ...

ズグェ!!

みどりの油断ま〇こに  
男のペニスが再度  
挿入される!!

逆転劇、終了!!



「マジで許さねえ…!!  
」そのまま帰すわけねえだろ!!」

「やめろっ! はなせっ!!」

「二発目出るまでじっくり  
ピストンしてやるからな!!」

男の精液まみれのペニスが  
危険目ま〇に  
しつこく擦られる!!

男の手は万力のように  
みどりの腰を掴んでいる!!

アッ アッ アッ ……  
アッ アッ アッ ……



「くっくっくっ!!  
(カじゃ勝てないっ!!)」

「暴れんなっ! 受け入れろっ!!  
諦めて受精しろっ!!」

「やだっ...あっ♡」

男のしつこい求愛に  
みどりのチヨロま○こが  
とうとう媚び始めてくる!!

ペニスはごりごり膣壁を擦り  
今一度遺伝子を送ろうと必死♡

ズッ♡  
ズッ♡

コッ♡  
コッ♡

ハァッ

ハァッ

ズッ♡  
ズッ♡



「ダメだった!!  
諦めるな夢乃みどり!!」

「諦める! 俺の女だ!!  
受精だけはしろっ!!」

「諦めないっ!!」

「雑魚ま○の癖に  
生意気言いやがって...」

男はそのままみどりに  
のしかかる♥

ズッ4♥  
ズッ4♥

コリ♡♡  
♡♡コリ♡

ズイ♡  
ズイ♡

ハア♡

ハア♡

キッ!



「死ね!!」

絶対に逃がさない  
必ず受精させる♥

男の寝バック種付けプレス♥

ド42♥  
ド42♥  
ド42♥  
ド42♥

「んっほおおおんツ!!  
これやばいッ! ダメえっ!」

ゴリ♥♥  
ゴリ♥

デカ乳搦んで力任せのプレス♥  
圧倒的な体重差は脱出不可能♥  
受精不可避♥妊娠不可避♥

ガァッ!!

ギョッ!

ギョッ





「やだあああッ!!」

「これやだあッ!」

やだやだやだやだやだあッ!」

「孕め孕め孕め孕め孕め!!」

《目なれちやうっ♡♡

私のタマゴにかけられちやうっ♡♡  
逃げなきや♡逃げなきや♡♡♡

「おおっ」発団昇ってきたあめあめ!!

もう暴れても無理だぞ!!  
カンペキに受精させる!!

俺の勝ちだよ!!」

ド4♡  
ド4♡  
ド4♡  
ド4♡

ゴリ♡♡  
ゴリ♡

ガッ!!

ギョ!

ギョッ



「オオオオオッ!!」

二発目というのにまだ粘っこい  
何も無い男の最後の悪あがき

絶対にこの雌を自分のモノにする  
子宮口すらすれないようしっかりホールド

細心の注意を払っての射精  
ひたすら器の小さい男に  
いのように腔内射精される



ガッ!!

ビュッ  
ビュッ

キュッ  
キュッ

「おっ♡ いっぐっ♡」

自らの卵子を奪わんとする  
不意打ちザーメンをモロに子宮に喰らって  
夢乃みどり、屈辱の本気イキ♡♡

将来結婚する旦那にも見せないであろう  
惚けた顔でザー汁一気飲み♡♡

完堕ちま○こも小刻みに収縮♡  
クズ男の最高の射精をサポート♡



びゅん♡

びゅん♡

ミッ♡

「ま、まだ受精さえしなければっ♡」

「受精しろ!! 今すぐしろ!!」

ダメ押しの一ピストン♡  
ノーリスクで遺伝子混ぜたい  
クズ男からの催促♡♡

卵子の逃げ場、ゼロ♡





「せ、せーしっ♡

卵子に群がるなあ♡

逃げるおっ♡」

当然精虫は卵子に群がり……♡

うごごご♡

ビュッ♡

ビュッ♡  
ビュッ♡

ミ4♡

ミ4♡

ツブ♡  
命中……♡

危険日ま〇こ敗北♡  
犯罪者の劣等遺伝子の  
強制ませませ大成功♡

「あ……ああ……」

夢乃みどり、敗北!!



「やった!! 勝ったぞ!!  
やっぱりあの男の言う通りだった!!  
ナノマシンとスタンガン!!」

男が勝どきの声を上げる。

「そうだ…コイツに協力してもらって  
ほかの抗眠士も俺のモノに……」

「俺の勝ちだ!!」

パチン!!





「パチンと...  
なんの音だ...??」

「え…あれ…俺は…」

おまほどまで抱らてらたはずの女が  
見下ろしてらる。

「これが催眠術だ」

「やらなご…」

「おそろくは私をそのスタンガンで襲い—  
ナノマシンとやらで存分に辱め、  
いたぶったのだろうが  
全てはお前の脳が見せた虚構」



「貴方の欲望がこつありたいと願った姿…  
それを見せたに過ぎない」

「そ…そんな…」

「こちらNo35、対象を確保」

すべては男が見た夢!!まぼろし!!  
夢乃みどり、堂々の勝利!!



## エピソード

通信から波の音が聞こえてきたことに、夢乃みどりのバディ・仕事仲間である『圭介』は驚いた。

「みどり!? みどりなのか!? やっと繋がった! ……で、なんで発信が海の上に!」

男に勝利した後、みどりはその足で港に向かい——船に乗っていた。

「南リソ島で違法機材が販売されている。私の夢ビデオもそこで買ったようだ。」

そう、おそろくヤツだ…

また拠点をかえて逃げられる前に捕まえる……止めてくれるなよ圭介!」

「おいおいマジか! なるほど船か!」

急いで増援を手配するが数日はかかるぞ!」

「問題ない——」

みどりの因縁の相手——自分のビデオを売り、男に違法機材を売った商人——

この世に『催眠犯罪組織』を作った男との対決が迫る。

その最終決戦の舞台は南国へ——

次回 夢乃みどり三部作 完結編  
乞うご期待!